



三二本語

207 語で何でも言える。

語彙	4
人 <small>ひと</small> と誰 <small>だれ</small> (代名詞と人)	4
物 <small>もの</small> と食べ物 <small>たべもの</small> (物と食べ物)	4
外 <small>そと</small> の物 <small>もの</small> (自然)	5
動物 <small>どうぶつ</small> (動物)	6
体 <small>からだ</small> (体の部位)	6
する事 <small>こと</small> (動詞)	7
どんな (性質)	9
色 <small>いろ</small> (色)	10
心 <small>こころ</small> と感 <small>かん</small> じ (心と感覚)	10
言 <small>い</small> う事 <small>こと</small> (伝達)	11
時 <small>とき</small> (時間)	11
所 <small>ところ</small> と上 <small>う</small> 下 <small>げ</small> (場所と空間)	12
一 <small>ひと</small> つにする言 <small>こと</small> 葉 <small>ば</small> (接続詞)	13
はいといいえ (応答と疑問)	13
いくつ (数)	14
文法	16
言 <small>こと</small> 葉 <small>ば</small> の形 <small>かたち</small> (文の構造)	16
する事 <small>こと</small> の形 <small>かたち</small> (動詞の活用)	17
ますとです (丁寧形)	18
一 <small>ひと</small> つにする言 <small>こと</small> 葉 <small>ば</small> (助詞)	19
どんな (修飾)	21
物 <small>もの</small> にする (名詞化)	22
思 <small>おも</small> うと「もし」 (意志と条件)	23
聞 <small>き</small> き方 <small>かた</small> (疑問と終助詞)	25
いくつ (数と数え方)	26
読み物	28
話 <small>はな</small> し (対話)	28
毎 <small>まい</small> 日 <small>にち</small> の話 <small>はな</small> し (日常の対話)	28
体 <small>からだ</small> と助 <small>たす</small> ける (健康と緊急)	31
所 <small>ところ</small> で話 <small>はな</small> す (場所での対話)	33
人 <small>ひと</small> と人 <small>ひと</small> (人付き合い)	36
考 <small>かんが</small> える話 <small>はな</small> し (思索の対話)	39
長 <small>なが</small> くない話 <small>はな</small> し (短編)	45

すこ	ことば	少しの言葉 (俳句)	51
そと	もの	外の物 (自然)	51
まいにち		毎日 (日常)	53
こころ		心 (心)	54
とき	か	時の変わり (季節)	55
ひと	ひと	人と人 (人の間)	56
い	し	生きる と 死ぬ (生と死)	57
ひかり	ひかり	光 と 光がない (光と闇)	58
ことば		言葉 (言葉)	59

語彙

ひと だれ 人と誰 (代名詞と人)

言葉	意味	例文
ひと 人	人間、ひと	あの人は誰？
わたし 私	自分、わたくし	私は人だ。
あなた	あなた、相手	あなたは誰？
だれ 誰	誰、何者	誰が来る？
おとこ 男	男性	あの男は大きい。
おんな 女	女性	あの女は母だ。
こども 子供	子供、幼い人	子供は外で走る。
はは 母	母親	母は食べ物を作る。
ちち 父	父親	父は山に行く。

もの た もの 物と食べ物 (物と食べ物)

言葉	意味	例文
もの 物	品物、もの	この物は何だ？
こと 事	事柄、抽象的なこと	その事は必要だ。
なに 何	何、不明なもの	何を食べる？
ふく 服	衣服	新しい服を着る。
ほん 本	書物	本を読む。

言葉	意味	例文
お金 かね	貨幣、通貨	お金で食べ物を買う。
肉 にく	肉、食肉	肉を食べる。
卵 たまご	卵、玉子	卵を食べる。

そと 自然 外の物 (自然)

言葉	意味	例文
石 いし	石、岩	道に石がある。
木 き	樹木、木材	山に木がある。
土 つち	土壌、大地	土の中に草がある。
水 みず	水、液体	水を飲む。
火 ひ	炎、火	火は暑い。
風 かぜ	風	外は風が強い。
太陽 たいよう	太陽	太陽は空にある。
光 ひかり	光、明かり	太陽の光が見える。
月 つき	月	夜、月が見える。
空 そら	空	空が青い。
山 やま	山	山に行く。
海 うみ	海、大洋	海はとても大きい。
雨 あめ	雨	雨の日は外に行かない。
草 くさ	草、植物	草が緑だ。
雲 くも	雲	空に雲がある。

どうぶつ 動物 (動物)

言葉	意味	例文
どうぶつ 動物	動物	どうぶつがすきだ。
さかな 魚	魚、魚類	うみに さかながいます。
とり 鳥	鳥、鳥類	とりがそらをとびます。
いぬ 犬	犬	いぬがいえにいます。

からだ 体 (体の部位)

言葉	意味	例文
からだ 体	体、身体	からだがつよい。
あたま 頭	頭	あたまでかんがえます。
て 手	手	てでものをとります。
あし 足	足、脚	あしでうごきます。
め 目	目	めでみます。
くち 口	口	くちでたべます。
みみ 耳	耳	みみでききます。
はな 鼻	鼻	はなからかぜがはいります。
こころ 心	心、精神	こころがあたためられています。
は 歯	歯	はでたべものをきります。
ち 血	血、血液	てからちがでます。
ほね 骨	骨	ほねがつよい。
はら 腹	腹、お腹	はらにたべ物がありません。
かみ 髪	髪、髪の毛	かみがながいです。
かわ 皮	皮、肌、皮膚	かわがあかいです。

こと する事 (動詞)

言葉	意味	例文
する	する、行う	なに 何をする？
いる	いる、存在する	どうぶつ やま 動物が山にいる。
ある	ある、持っている	ほん いえ 本が家にある。
なる	なる、変化する	おお 大きくなる。
おこる	起こる	わる こと お 悪い事が起こる。
いく	行く	やま い 山に行く。
来る	来る	ひと いえ く 人が家に来る。
動く	動く	どうぶつ うご 動物が動く。
はい入る	入る	いえ はい 家に入る。
で出る	出る	いえ で 家から出る。
と止める	止まる、止める	うご と 動きを止める。
つく作る	作る、創る	た もの つく 食べ物を作る。
つか使う	使う	もの つか 物を使う。
き切る	切る	き き 木を切る。
た食べる	食べる	よる た 夜に食べる。
の飲む	飲む	みず の 水を飲む。
ね寝る	寝る、眠る	よる ね 夜に寝る。
きる着る	着る	ふく き 服を着る。
すわる座る	座る	いえ すわ 家で座る。
た立つ	立つ	そと た 外で立つ。
生きる	生きる	どうぶつ みず い 動物は水で生きる。
し死ぬ	死ぬ	くさ し 草が死ぬ。

言葉	意味	例文
はじ 始まる	始まる	日にち はじ 日が始まる。
お 終わる	終わる	日にち お 日が終わる。
あ 開く	開ける、開く	め あ 目が開く。
し 閉める	閉める、閉じる	め し 目を閉める。
か 変わる	変わる	そら いろ か 空の色が変わる。
あた 与える	与える	どうぶつ た 動物に 食べ物 を 与える。
もらう	受ける、もらう	ひと ほん 人から本をもらう。
も 持つ	持つ、所有する	ほん も 本を持つ。
あ 会う	会う	ひと あ 人に会う。
ま 待つ	待つ	ひと ま 人を待つ。
たす 助ける	助ける	ひと たす 人を助ける。
まも 守る	守る	こども まも 子供を守る。
たたか 戦う	戦う	ひつよう 必要な物のために たたか 戦う。
えら 選ぶ	選ぶ	た もの えら 食べ物を選ぶ。
さが 探す	探す	みち さが 道を探す。
か 買う	買う	た もの か 食べ物を買う。
い 言う	言う、話す	なまえ い 名前を言う。
か 書く	書く	ほん か 本に書く。
よ 読む	読む	ほん よ 本を読む。
おし 教える	教える	ひと ことば おし 人に言葉を教える。
かんが 考える	考える	こと かんが 事を考える。
わら 笑う	笑う	ひと わら 人と笑う。
な 泣く	泣く	こども な 子供が泣く。
できる	できる	これはひと 一りでできる。

言葉	意味	例文
わかる	分かる、理解する	この言葉が分からない。
話す	話す、会話する	人と話すのが好きだ。
歩く	歩く、徒歩	家まで歩く。
飛ぶ	飛ぶ、飛翔する	鳥が飛ぶ。

どんな (性質)

言葉	意味	例文
暑い	気温が高い	外は暑い。
寒い	気温が低い	外は寒い。
良い	良い	この本は良い。
悪い	悪い	空が悪い。
大きい	大きい	あの山は大きい。
長い	長い	この道は長い。
高い	高い	この大きい家は高い。
重い	重い	この石は重い。
変	変な、不思議な	この音は変だ。
きれい	綺麗な、清潔な	この山はきれいだ。
強い	強い	あの人は強い。
楽しい	楽しい	人と会うのは楽しい。
違う	違う、異なる	この色は違う。
他	他の、別の	他の人に聞く。
新しい	新しい	新しい本を買う。

言葉	意味	例文
はや 速い	速い	あの動物は速い。
おお 多い	多い、たくさん	ここは人が多い。
ほんとう 本当	本当の、真実の	本当か？
ちい 小さい	小さい	この石は小さい。
おな 同じ	同じ、同一	私とあなたは同じ物を食べた。

いろ 色 (色)

言葉	意味	例文
いろ 色	色	この空の色はきれいだ。
しろ 白	白	この石は白い。
くろ 黒	黒	その空は黒い。
あか 赤	赤	火は赤い。
あお 青	青	空は青い。
きいろ 黄色	黄色	この光は黄色い。
みどり 緑	緑	草は緑だ。
あか 明るい	明るい	外は明るい。

こころ かん 心と感じ (心と感覚)

言葉	意味	例文
し 知る	知る、理解する	その名前を知っている。
かん 感じる	感じる	風を感じる。

言葉	意味	例文
見る	見る	空 <small>そら</small> を見 <small>み</small> る。
聞く	聞く	音 <small>おと</small> を聞 <small>き</small> く。
思う	思う	それは良 <small>よ</small> いと思 <small>おも</small> う。
欲しい	欲しい	新 <small>あたら</small> しい本 <small>ほん</small> が欲 <small>ほ</small> しい。
必要	必要な	水 <small>みず</small> は必 <small>ひつよう</small> 要 <small>よう</small> だ。
好き	好き	動 <small>どうぶつ</small> 物が好 <small>す</small> きだ。
怖い	怖い	その話 <small>はなし</small> は怖 <small>こわ</small> い。
悲しい	悲しい	その話 <small>はなし</small> は悲 <small>かな</small> しい。
怒る	怒る	父 <small>ちち</small> が怒 <small>おこ</small> る。

言う事 (伝達)

言葉	意味	例文
言葉	言葉	この言 <small>ことば</small> 語 <small>ご</small> が分 <small>わ</small> からない。
名前	名前	あなたの名 <small>なまえ</small> 前 <small>まえ</small> を教 <small>おし</small> えてくだ さい。
音	音	変 <small>へん</small> な音 <small>おと</small> を聞 <small>き</small> く。

とき (時間)

言葉	意味	例文
時	時、時間	食 <small>た</small> べる時 <small>とき</small> 、手 <small>て</small> を使 <small>つか</small> う。
今	今	今 <small>いま</small> 、食 <small>た</small> べる。
前	前、以前	食 <small>た</small> べる前 <small>まえ</small> に水 <small>みず</small> を飲 <small>の</small> む。

言葉	意味	例文
あと 後	後、後で	食べた ^{あと} 後、家 ^{いえ} に行く。
まい 毎	毎～、いつも	まいにち ^{まい} みず ^{みず} の ^の 飲む。
にち 日	日	よい ^よ にち ^{にち} だ。
とし 年	年	あた ^あ たら ^た ら ^ら とし ^{とし} はじ ^{はじ} まる。
よる 夜	夜	よる ^{よる} そ ^そ ら ^ら つき ^{つき} み ^み 見える。

ところ ^{うえした} 所と上下 (場所と空間)

言葉	意味	例文
くに 国	国	この ^{くに} 国は ^{おお} 大きい。
ところ 所	場所	いい ^{ところ} 所を ^{さが} 探す。
いえ 家	家、住まい	わ ^わ たし ^{たし} い ^{いえ} え ^え の ^の 家 ^{おお} は大きい。
みち 道	道、通り道	み ^み ち ^ち い ^い 道 ^い を行 ^い く。
なか 中	中、内側	い ^{いえ} え ^え の ^の なか ^{なか} に ^に 物 ^{もの} がある。
そと 外	外、外側	そ ^そ と ^と い ^い 外 ^い を行 ^い く。
うえ 上	上	や ^や ま ^ま の ^の う ^う え ^え に ^に 人 ^{ひと} が ^が い ^い る。
した 下	下	き ^き の ^の した ^{した} に ^に 何 ^{なに} か ^か あ ^あ る。
みぎ 右	右	み ^み ぎ ^ぎ に ^に お ^{おお} お ^お い ^{いえ} 家 ^え があ ^あ る。
ひだり 左	左	ひ ^ひ だ ^だ り ^り に ^に や ^や ま ^ま 山 ^い があ ^あ る。
ちか 近い	近い	や ^や ま ^ま は ^は い ^{いえ} え ^え 家 ^{ちか} から ^か 近 ^{ちか} い。
とお 遠い	遠い	う ^う み ^み は ^は と ^と お ^お 遠 ^と い。
ここ	ここ	こ ^こ こ ^こ に ^に す ^す わ ^わ 座 ^わ って ^て く ^く だ ^だ さ ^さ い。
そこ	そこ、あそこ	そ ^そ こ ^こ に ^に 何 ^{なに} か ^か あ ^あ る？
どこ	どこ	う ^う み ^み は ^は ど ^ど こ ^こ ？

ひとつにする言葉 (接続詞)

言葉	意味	例文
全部 ^{ぜんぶ}	全部、すべて	全部 ^{ぜんぶ} 食 ^た べた。
と	と、そして	水 ^{みず} と食 ^た べ物 ^{もの} をください。
または	または、か	水 ^{みず} または飲 ^の み物 ^{もの} をください。
でも	でも、しかし	小 ^{ちい} さい。でも強 ^{つよ} い。
から	から	寒 ^{さむ} いから、家 ^{いえ} にいる。
まで	まで	夜 ^{よる} まで待 ^ま つ。
なら	もし	時 ^{とき} があるなら、外 ^{そと} に行 ^い く。
だけ	だけ	水 ^{みず} だけ飲 ^の む。
も	も	私 ^{わたし} も行 ^い く。
もっと	もっと	もっと食 ^た べたい。
もう	もう	もう食 ^た べた。
まだ	まだ	まだ食 ^た べていない。
とても	とても	この食 ^た べ物 ^{もの} はとても良 ^よ い。
少し ^{すこ}	少し	少し待 ^ま ってください。
方 ^{かた}	方法、やり方	食 ^た べ方 ^{かた} を教 ^{おし} えてください。
たぶん	多分、おそらく	たぶん雨 ^{あめ} が来 ^く る。

はいといいえ (応答と疑問)

言葉	意味	例文
すみません	すみません	すみません、道 ^{みち} を教 ^{おし} えてください。
ありがとう	ありがとう	ありがとう。助 ^{たす} かった。

言葉	意味	例文
ください	ください	水 <small>みず</small> をください。
はい	はい	はい、分 <small>わ</small> かった。
ない	ない	お金 <small>かね</small> がない。
どう	どう、どのよう に	これはどう使 <small>つか</small> う？
いいえ	いいえ	いいえ、欲 <small>ほ</small> しくない。
いつ	いつ	いつ来 <small>く</small> る？
なぜ	なぜ	なぜ行 <small>い</small> かない？
これ	これ	これは何 <small>なん</small> だ？
それ	あれ、それ	それをください。
この	この	この本 <small>ほん</small> は良 <small>よ</small> い。
その	あの、その	その食 <small>た</small> べ物 <small>もの</small> は何 <small>なん</small> だ？

いくつ(数)

一部の数字には二通りの読み方がある。4=し/よん、7=しち/なな、9=く/きゅう。日常会話ではよん・なな・きゅうが無難。大きい数は掛け算で作る: 二十=20、三百=300。

言葉	意味	例文
いち	一	ひと <small>ひと</small> やま <small>やま</small> い <small>い</small> 一りで山に行った。
に	二	て <small>て</small> ふた <small>ふた</small> 手は二つある。
さん	三	さんにん <small>さん</small> こども <small>こども</small> 三人の子供がいる。
よん	四	いぬ <small>いぬ</small> あし <small>あし</small> よん <small>よん</small> 犬の足は四つだ。
ご	五	ごにん <small>ご</small> ひと <small>ひと</small> き <small>き</small> 五人の人が来た。

言葉	意味	例文
ろく 六	六	ろくがつ あめ おお 六月は雨が多い。
なな 七	七	なな いろ そら で 七つの色が空に出た。
はち 八	八	はちがつ あつ 八月はとても暑い。
きゅう 九	九	く じ ね 九時に寝る。
じゅう 十	十	じゅうにん た 十人で食べた。
ひゃく 百	百	みず ひゃく ご じゅう 水は百五十だ。

文法

ことば かたち 言葉の形 (文の構造)

ことば く ところ 言葉の来る所

場を設定してから動作。[誰が][いつ][どこで][何を] → [動詞]。動詞は常に最後。助詞が各語の役割を示す。映画のように、まず場面を作り、それから動く。

わたし ほん よ
私は本を読む。

わたし ひと
私は人だ。

い こと 言わない事

既知の情報は省略する。主語・目的語など、文脈から分かるものは言わなくてよい。これが日本語の基本。

なに の みず
「何を飲む？」「水。」

ある / いる

存在がそのまま所有を表す。「have」に当たる動詞は不要。生き物には「いる」、それ以外は「ある」を使う。

どうぶつ
動物がいる。

ほん
本がある。

わたし ほん
私は本がある。

【^{こと} ^{かたち} する事の形 (動詞の活用)

よっ ^{かた} 四つの方

動詞に四つのフィルター: する (現在・未来) / た (完了) / ない (否定) / なかった (過去否定)。写真のフィルターのように動詞はそのまま、周りを変える。すべてこの四つの上に構築する。

食べる → 食べた → 食べない → 食べなかった

行く → 行った → 行かない → 行かなかった

する → した → しない → しなかった

来る → 来た → 来ない → 来なかった

かた ての方

動作を実際の順に連結する。「to」「by」「with」は不要。動詞を順に並べるだけ。書いて読んで寝た。時制は文末のみ。活用: く→いて、む→んで、つ→って、る→て。

か 書く → 書いて

の 飲む → 飲んで

ま 待つ → 待って

た 食べる → 食べて

か 書いて 読んで 寝た。

て+もっと

て形にさらに付け足す。依頼 (+ください)、進行 (+いる)、許可 (+もいい)、禁止 (+はいけない)。同じて形、違う語尾。

ま 待ってください。

いま よ 今 読んでいる。

すわ 座ってもいい？

はい
入ってはいけない。

られる / える

可能を表す。一段動詞: るを取ってられるを付ける。五段動詞: え段+る。
する → できる。

か
書く → 書ける

み
見る → 見られる

する → できる

ないでください

否定の依頼。動詞のない形+で+ください。入らないでください=入らないように願います。

はい
入らないでください。

て
も
手で持たないでください。

ますとです (丁寧形)

ます / です

よく知らない人と話す時はます形を使う。動詞の連用形+ます。だ → です。常に規則的: ます / ました / ません / ませんでした。普通形より簡単 - 音便変化なし。

みず の
水を飲みます。

やま い
山に行きました。

さかな た
魚を食べません。

この本は良いです。

いつますを使うか

ます/です形は知らない人・店員・医師・先生・同僚に使う。普通形は親しい友人・家族に使う。ます形を使わないと幼稚・失礼に聞こえる。ですはいい形容詞にも付く:寒い→寒いです。だ→です(名詞・な形容詞)。

かう ところ
買う所で:これをください。いくらですか。

す ひと
好きな人に:これ、いくら?

さむ
寒いです。

ひとつにする言葉(助詞)

は (wa)

場を設定する:「～については...」。文の枠の[誰]の位置を埋める。この文が何についてかを示す。

この本は良い。

わたしは目が良い。

が (ga)

動作の主体を示す。誰がそれをするか。新しい情報を表す。

だれが来る?

を (o)

文の枠の[何]の位置を埋める。動作の対象を示す。

水を飲む。

に (ni)

文の枠の[いつ]と[どこ]の位置を埋める。行き先・時間・存在の場所を表す。

やま い
山に行く。

よる ね
夜に寝る。

いえ どうぶつ
家に動物がいる。

で (de)

動作の場所・手段を表す。「に」は存在の場所、「で」は動作の場所。

いえ よ
家で読む。

て か
手で書く。

の (no)

名詞と名詞をつなぐ。動詞を名詞化する用法もある（第5章参照）。

わたし ほん
私の本。

やま うえ
山の上。

と (to)

並列・共同・引用を表す。発言・思考・音・名前など、あらゆるものを引用できる。

みず ほん か
水と本を買った。

い
「行く」と言った。

も (mo)

「～も」で同様であることを示す。は・が・をの代わりに使う。

ちち ほん よ はは よ
父は本を読む。母も読む。

から / まで

起点（から）と終点（まで）を表す。「から」は理由も表せる。

いえ やま い
家から山まで行く。

よる ま
夜まで待つ。

さむ いえ
寒いから、家にいる。

より

「Xより」で「Xよりも」の意味。この助詞一つであらゆる比較を表せる。

やま おお
山より大きい。

みず た もの す
水より食べ物が好きだ。

どんな (修飾)

いのことば 言葉

動詞と同様に活用する。「寒い」だけで文が成立する。活用: くない・かった・くて。「だ」は不要。

さむ
寒い。

さむ
寒くない。

さむ
寒かった。

さむ かな
寒くて悲しい。

な^{ことば}の言葉

名詞の前に「な」を付ける。否定は「じゃない」、過去は「だった」。

ひつよう もの
必要な物。

ひつよう
必要じゃない。

ひつよう
必要だった。

ひつよう よ
必要で良い。

～くなる / ～になる

状態の変化を表す。あらゆる変化をこの一つの型で表現できる。

あつ → あつ
暑い → 暑くなる。

ひつよう ひつよう
必要 → 必要になる。

する^{こと}事 + ^{もの}物

動詞や文を名詞の前に置いて修飾する。語彙を作り出す力の源。

やま うご こと
山で動く子供。

わたし か もの
私買った物。

もの^{もの}にする (名詞化)

の

くだけた名詞化。「食べるのが好き」。疑問文にも使う:「何しているの?」

た す
食べるのが好きだ。

なに
何しているの?

こと

動作を抽象的な概念にする。「走ること」は走るという考え。「飲むもの」は物理的な物。「こと」は抽象、「もの」は具体。

動くことは良い。

行くことができる。

必要なことを言う。

もの

触れたり指せたりする物理的なもの。「飲むもの」= 飲める何か。「こと」は抽象的な概念、「もの」は具体的な物。

飲むもの。

読むもの。

必要なものを持っている。

方

やり方を表す。動詞の連用形に付ける。食べ方 = 食べる方法。使い方 = 使う方法。こと（概念）+もの（物）+方（方法）で何でも表現できる。

食べ方を教えてください。

この言葉の使い方が知りたい。

聞き方が必要だ。

思うと「もし」（意志と条件）

たい / 欲しい

動作の希望（動詞の連用形 + たい）。物の希望（欲しい）。

行きたい。

あたら しい いえ ほ
新しい家が欲しい。

たら / なら / ければ

たら = もしその事態が起こったら (動詞のた形 + たら)。なら = もしそうであるなら。ければ = い形容詞の条件形 (い → ければ)。

あめ き たら、い
雨が来たら、行かない。

とき があるなら、来てください。

さむ ければ、い
寒ければ、家にいる。

と思う / と言う

「と」で何でも引用できる。思考・発言・音。「という」は「～と呼ばれる」の意味。

よ
良いと思う。

い
「行く」と言った。

おお やま ところ
大きい山という所

ために

目的と受益者を表す。動詞+ために、または名詞+のために。

し
知るために読む。

こども
子供のために。

う / よう / ましょう

一緒にすることを提案する。行こう / 行きましょう = 一緒に行く。食べよう / 食べましょう = 一緒に食べる。動詞の連用形 + ましょう (丁寧)。

^た食べましょう。

^{ふた}二りで^い行きましょう。

なくてはいけない / なきゃ

義務を表す。動詞のない形 → なくてはいけない (しなければならない)。
話し言葉では「なきゃ」だけで十分。行かなきゃ = 行かなければならない。

^{みず}の^の水を飲まな^なきゃ。

^{まい}に^ちある毎日歩かなくては^ないけない。

ほうがいい

助言を表す。動詞のた形 + ほうがいい = した方がよい。動詞のない形 + ほうがいい = しない方がよい。

^{みず}の^の水を飲んだ^たほうが^いいい。

^い行かない^なほうが^いいい。

^き聞^{かた}き方 (疑問と終助詞)

か / ね / よ

疑問 (か) / 同意の確認 (ね) / 主張 (よ)。くだけた会話では「か」を省略して語尾を上げるだけのことも多い。

これは^{みず}水か？

^よ良い^{にち}日だね。

^い行くよ。

なに だれ 何・誰・どこ・いつ・なぜ + も/でも

疑問詞は答えの位置に置く。+も（否定）= 何もない・誰もいない。+でも = 何でも・誰でも。疑問詞 5つ + 助詞 2つ = 20 語の代名詞が作れる。

なに た 食べる？ → なに た 何も 食べない。

なん つく 何でも 作れる。

だれ 誰も いない。

だれ 誰でも できる。

いくつ (数と数え方)

つ (いくつ)

物を数える時に「つ」を使う。読みがすべて変わる: 1=ひとつ 2=ふたつ 3=みつつ 4=よつつ 5=いっつ 6=むつつ 7=ななつ 8=やつつ 9=ここのつ。10=とお (つなし!)。10 より上は数字のみ。何にでも使える万能助数詞。

たまご みつ 卵を三つください。

さかな ふた たまご いっつ 魚を二つと卵を五つください。

たまご やっ か 卵を八つ買った。

たまご とお ぜんぶ た 卵が十ある。全部食べた。

いくつの作り方

数字を十・百の前に置く。二十 = 20。三百 = 300。連結: 三百五十二 = 352。パターン: [数字]百[数字]十[数字]。百の前で音変化: 300=さんびゃく、600=ろっぴゃく、800=はっぴゃく。コツ: まず値段から覚える。買い物たびに数字が聞こえる。

に じゅうにん ひと き 二十人の人が来た。

さんびゃくごじゅうに これは三百五十二です。

いくつかの読み方

読みが常に同じ8つ: いち(1) に(2) さん(3) ご(5) ろく(6) はち(8) じゅう(10) ひゃく(100)。二通りの読みがある3つだけ: し/よん(4) しち/なな(7) く/きゅう(9)。迷ったらよん・なな・きゅうを使う。日常会話ではこちらが一般的。しは死と紛らわしいのでよんが無難。

しがつ あめ く よし あ
四月に雨が来る。四時に会う。

しちがつ あつ なな やま み
七月は暑い。七つの山が見える。

くがつ さむ きゅうじ ね
九月から寒くなる。九時に寝る。

これはさんびゃく ろっぴゃく はっぴゃく
これは三百。それは六百。あれは八百。

読み物

はな 話し (対話)

まいにち はな 毎日の話し (日常の対話) か ところ 買う所で (店で)

A: すみません。この食べ物は何ですか。

B: これは良い食べ物です。水と草で作りました。

A: これをください。他の物もありますか。

B: はい。そこに新しい物があります。

A: それも見てもいいですか。

B: はい。手で持ってください。

A: これを買います。ありがとう。

B: ありがとう。また来てください。

A: すみません。この食べ物は何ですか。

B: これはおいしい食べ物です。水と野菜で作りました。

A: これをください。他の物もありますか。

B: はい。あちらに新しい品物があります。

A: それも見てもいいですか。

B: はい。手に取ってご覧ください。

A: これを買います。ありがとうございます。

B: ありがとうございます。またお越しください。

みち ひと あ 道で人と会う (道で友人に会う)

A: あ！どこに行きますか？

B: 今は海に行きます。あなたは？

A: 私わたしは家いえに来くる。体からだが少すこし悪わるいです。

B: 体からだが悪わるいですか？水みずを飲のんで、寝ねてください。

A: ありがとう。海うみの風かぜはとてよよいね。

B: そうだね。でも今いまは風かぜが強つよいです。

A: よよくまも守まもってください。また会あおう！

B: はい、また会あおう！

A: あ！どこに行くんですか。

B: 今いまから海うみに行くところですよ。あなたは？

A: 私は家いえに帰かえります。体からだの調てい子が少すこし悪わるいです。

B: 体からだ調ていが悪わるいんですか？水みずを飲のんで、休やすんでください。

A: ありがとうございます。海うみの空そら気きはとてよよ気持ちこころいいですよ。

B: そうですね。でも今日けふは風かぜが強つよいです。

A: お気きをつけて。また会あいましょう！

B: はい、また会あいましょう！

いえ よる た もの 家の夜の食べ物(家族の夕食)

母: 座すわってください。食たべ物ものができた。

子供: 今いまは何なにを食たべる？

母: 草くさと水みずで作つくった。体からだに良よい。

父: とてよよい物ものだね。今いままで体からだがとてよよ重おもかった。

子供: 父ちち、今いまの日は楽たのしかったか。

父: まあまあだすった。でも家いえに来くることがもすっと好すきだ。

母: この物ものを全ぜん部ぶ食たべてください。

子供: はい！とてよよい。ありがとう、母はは。

母: 座すわってください。ご飯いしができましたよ。

子供: 今日けふは何なにを食たべるの？

母: 野菜やさいと水みずで作つくりました。体からだにいいですよ。

父: とてよよいしいそううですね。最近さいきんずっと体からだが重おもかったんです。

子供: お父ちちさん、今日けふは楽たのしかった？

父: まあまあだったよ。でも家に帰るのが一番好きだ。

母: これを全部食べてくださいね。

子供: うん! とてもおいしい。ありがとう、お母さん。

みち き 道を聞く (道を尋ねる)

A: すみません。大きい大きい家はどこですか。

B: ここから遠いです。

A: どう行ったらいいですか。

B: この道を行ってください。大きい木の^{おお}前で^き右^{みぎ}に入^{はい}ってください。

A: 木の^き前で^{まえ}右^{みぎ}だね。その^{あと}後は?

B: 大きい家^{おお}を見^いることが^みできます。それ^{です}です。

A: 歩^{ある}いて行^いけますか。

B: はい、歩^{ある}いて行^いけます。遠^といですが、良^よい道^{みち}だ。

A: ありがとう!

A: すみません。大きい建物はどこですか。

B: ここからは近くないですよ。

A: どう行ったらいいですか。

B: この道をまっすぐ行ってください。大きな木のところで右に曲がってください。

A: 木のところで右ですね。その後は?

B: 建物が見えます。それです。

A: 歩いて行けますか。

B: はい、歩いて行けます。近くはないですが、いい道ですよ。

A: ありがとうございます!

にち はし 日の始まり (朝の日課)

母: もう立^たってください! 日^{にち}が^で出ている。

子供: まだ目^めが^{おも}重^{すこ}い。もう少^{すこ}し^ね寝^ねたい。

母: いけない。速^{はや}く服^{ふく}を^き着^きてください。

こども 子供: はい。でも今は空いま そらが明あかくなくない。雨あめが来くるか。

はは 母: そうだね。外そとは少し寒すこ さむいから、良よい服ふくを着きてください。

こども 子供: 今は何なにを食たべる？

はは 母: 水みずと食たべ物ものがある。全ぜん部ぶ食たべてください。

こども 子供: はい、母はは。今いまの日にちも楽たのしいと思おもう！

母: もう起きなさい！日が出ていますよ。

子供: まだ眠いよ。もう少し寝たい。

母: だめです。早く服を着なさい。

子供: はい。でも今日は空が暗いね。雨が降るかな。

母: そうね。外は少し寒いから、暖かい服を着てね。

子供: 今朝は何を食べるの？

母: お水とご飯があるよ。全部食べてね。

子供: はい、お母さん。今日も楽しい日になると思う！

からだ たす 体と助ける (健康と緊急)

からだ わる と き 体が悪い時 (医者で)

わたし 私: すみません。体からだが悪わるいです。

からだ たす ひと 体を助ける人: どこどこが悪わるいですか。

わたし 私: 頭あたまが悪わるい感じかんです。体からだも暑あついです。

からだ たす ひと 体を助ける人: いついつから悪わるいですか。

わたし 私: 前まえの日にちからです。夜よるも寝ねられませんでした。

からだ たす ひと 体を助ける人: 口くちを開あけてください。体からだを見みます。

からだ たす ひと 体を助ける人: 体からだを良よくする物ものを飲のんでください。よよく寝ねてください。

からだ たす ひと 体を助ける人: 三みつつの日にちのあとに良よくならないなら、ままた来きてください。

わたし 私: 分わかりました。あありがとうござごいます。

患者: すみません。体の調子が悪いです。

医者: どこが悪いですか。

患者: 頭が痛いです。体も熱いです。

医者: いつからですか。

患者: 昨日からです。夜も眠れませんでした。

医者: 口を開けてください。体を診ます。

医者: 薬を飲んでください。よく寝てください。

医者: 三日後に良くならなかつたら、また来てください。

患者: 分かりました。ありがとうございます。

からだ よ もの か 体を良くする物を買う (薬を買う)

わたし 私: すみません。からだ よ もの ほ
私: すみません。体を良くする物が欲しいです。

みせ ひと 店の人: どこが悪いですか。

わたし 私: 腹が悪い感じですか。食べた後に悪くなります。

みせ ひと 店の人: 食べ物で体が悪くなる事がありますか。

わたし 私: いいえ、ないです。

みせ ひと 店の人: これがよいと思います。毎日、食べた後に一つ飲んでください。

わたし 私: 分かりました。いくらですか。

みせ ひと 店の人: 五百です。良くならないなら、からだ たす ひと あ
店の人: 五百です。良くならないなら、体を助ける人に会ってください。

客: すみません。薬が欲しいのですが。

店員: どこが悪いですか。

客: お腹が痛いです。食べた後に痛くなります。

店員: 食べ物でアレルギーが出ることはありますか。

客: いいえ、ありません。

店員: これがよいと思います。毎日、食後に一つ飲んでください。

客: 分かりました。いくらですか。

店員: 五百円です。良くならなければ、医者に行ってください。

たす 助けてください (助けてください)

A: すみません! たす
A: すみません! 助けてください!

B: どうしましたか。

A: あの人が下に行きました。足が悪いと思います。動けません。

B: どこですか。

A: あの大きい家の前です。道の上にあります。

B: 分かりました。助ける人に言います。待ってください。

A: ありがとうございます。あの人の近くにいてください。

B: はい。水を与えましょう。体を動かさないでください。

A: すみません！助けてください！

B: どうしましたか。

A: あの人が倒れました。足を怪我したと思います。動けません。

B: どこですか。

A: あの大きい建物の前です。道の上にあります。

B: 分かりました。救急を呼びます。待ってください。

A: ありがとうございます。あの人のそばにいてください。

B: はい。水をあげましょう。体を動かさないでください。

所で話す (場所での対話) 人が来る物を待つ所で (駅で)

A: すみません。ここから海の人が来る物を待つ所まで行きたいです。

所の人: 二百です。

A: 一つください。何つ目の所から出ますか。

所の人: 三つ目です。上に行ってください。

A: いつ来ますか。

所の人: 十五の後です。

A: 海の所までどのくらいですか。

所の人: 二十ぐらいです。三つ目の所まで出てください。

A: すみません。ここから海の駅まで行きたいです。

駅員: 二百円です。

A: 一枚ください。何番線から出ますか。

駅員: 三番線です。上に行ってください。

A: いつ来ますか。

駅員: 十五分後です。

A: 海の駅までどのくらいですか。

駅員: 二十分くらいです。三つ目の駅で降りてください。

食べる所た ところで(食べる所で)

店の人: みせ ひと なんにん 何人ですか。

A: ふた ひと 二人です。

店の人: みせ ひと すわ どうぞ、こちらに座ってください。

A: すみません。この た もの なか なに すみません。この食べ物の中に何がありますか。

店の人: みせ ひと くさ にく からだ わる た もの 草と肉です。体が悪くなる食べ物がありますか。

A: はい。たまご からだ わる はい。卵で体が悪くなります。

店の人: みせ ひと わ た もの たまご はい 分かりました。この食べ物には卵は入っていません。

A: では、これをください。

A: すみません。かね ぜんぶ すみません。お金を全部ください。

店員: 何名様ですか。

A: 二人です。

店員: どうぞ、こちらにお座りください。

A: すみません。この料理の中に何が入っていますか。

店員: 野菜とお肉です。アレルギーはありますか。

A: はい。卵でアレルギーが出ます。

店員: 分かりました。この料理には卵は入っていません。

A: では、これをください。

A: すみません。お会計をお願いします。

買う所か ところで(コンビニで)

店の人: みせ ひと き 来てくれてありがとう。

A: すみません。この た もの あつ すみません。この食べ物を暑くしてください。

店の人: はい。少し待ってください。入れる物は必要ですか。

A: はい、ください。

店の人: 他に欲しい物がありますか。

A: この飲み物もください。

店の人: 全部で三百五十です。

A: お金の小さい物で良いですか。

店の人: はい。ありがとうございます。

店員: いらっしやいませ。

A: すみません。これを温めてください。

店員: はい。少々お待ちください。袋は必要ですか。

A: はい、お願いします。

店員: 他に欲しい物がありますか。

A: この飲み物もください。

店員: 全部で三百五十円です。

A: カードで大丈夫ですか。

店員: はい。ありがとうございます。

音で言う物で人に言う (電話で予約する)

A: もしもし。体を助ける所ですか。

体を助ける所の人: はい。何のためですか。

A: 体を助ける人に会いたいです。いつが良いですか。

体を助ける所の人: 後の日の十の時はどうですか。

A: 良いです。私の名前はたなかです。

体を助ける所の人: たなかさんですね。後の日の十の時です。待っています。

A: もしもし。病院ですか。

受付: はい。どうされましたか。

A: 医者に会いたいです。いつが良いですか。

受付: 明日の十時はどうですか。

A: 大丈夫です。私の名前は田中です。

受付: 田中さんですね。明日の十時です。お待ちしております。

来た事を書く所をする所で (届け出をする所で)

A: すみません。ここに来た事を書きたいです。

所の人: 分かりました。あなたが誰かを見せる物が必要です。

所の人: 他国の人なら、国に行く本も必要です。

A: はい。これです。どうぞ。

所の人: ありがとうございます。この書く物に名前と家の所を書いてください。

A: 書き方が分かりません。教えてください。

所の人: はい。ここに名前。ここに家の所を書いてください。

A: ありがとうございます。どこに出しますか。

所の人: 二つ目の所に持って行ってください。

A: すみません。住所の届け出をしたいです。

職員: 分かりました。身分証が必要です。

職員: 外国の方なら、パスポートも必要です。

A: はい。これです。どうぞ。

職員: ありがとうございます。この用紙に名前と住所を書いてください。

A: 書き方が分かりません。教えてください。

職員: はい。ここに名前、ここに住所を書いてください。

A: ありがとうございます。どこに出しますか。

職員: 二番の窓口に行って行ってください。

人と人 (人付き合い) 私の事を言う (自己紹介)

A: こんにちは。ここに新しく来ました。私はたなかです。

B: こんにちは。私ははやまもとです。家が近い人です。

A: よろしくください。私^{わたし}は他^{ほか}の国^{くに}から来^きました。

B: そうですね。この国^{くに}の言葉^{ことば}がとともよい^よいですね。

A: ありがとうございます。まだ少^{すこ}しだけです。

B: 何か分^{なに}からない事^わがあったら、言^{こと}ってください。

A: ありがとうございます。ととも助^{たす}かります。

A: こんにちは。ここに引^ひ越^こしてきました。田中^{たなか}です。

B: こんにちは。山本^{やまもと}です。お隣^{となり}の者^{もの}です。

A: よろしく願^{ねが}いします。外国^{がいこく}から来^きました。

B: そうですね。日本語^{にほんご}がとともお上手^{うまい}ですね。

A: ありがとうございます。まだ少^{すこ}しだけです。

B: 何か分^{なに}からないこと^{こと}があったら、言^いってください。

A: ありがとうございます。ととも助^{たす}かります。

もう一つ^{ひと}ください(もう一度^{いちど}願^{ねが}いします)

A: すみません。今^{いま}の言葉^{ことば}が分^わかりませんでした。

B: すみません。もう一つ^{ひと}言^いいましょうか。

A: はい。もう少^{すこ}し速^{はや}くなく言^いってください。

B: この道^{みち}を行^いって、大^{おお}きい木^きの前^{まえ}で右^{みぎ}です。

A: 道^{みち}を行^いって.....右^{みぎ}。すみません、書^かいてもらえますか。

B: はい。ここ^こに書^かきます。これ^{これ}で分^わかりますか。

A: はい！書^かいた物^{もの}は分^わかります。あ^ありがとうござ^ごいます。

A: すみません。今^{いま}の言葉^{ことば}が分^わかりませんでした。

B: すみません。もう一^{いち}度^ど言^いいましょうか。

A: はい。もう少^{すこ}しゆ^{ゆる}っくり言^いってください。

B: この道^{みち}を行^いって、大^{おお}きい木^きの前^{まえ}で右^{みぎ}です。

A: 道^{みち}を行^いって.....右^{みぎ}。すみません、書^かいてもらえますか。

B: はい。ここ^こに書^かきます。これ^{これ}で分^わかりますか。

A: はい！書^かいてあ^あれば分^わかります。あ^ありがとうござ^ごいます。

家^{いえ}が近^{ちか}い人^{ひと}(隣^{となり}の人)

A: すみません。この物は今の日に外に出してもいいですか。

B: いいえ。今日は違います。

A: そうですか。いつが良いですか。

B: この物は月の日とお金の日にします。

A: 書く物はいつですか。

B: 書く物は水の日です。日の中の前に出してください。

A: 分かりました。ありがとうございます。

B: 分からない事があったら、聞いてください。

A: すみません。このゴミは今日出してもいいですか。

B: いいえ。今日は違います。

A: そうですか。いつが良いですか。

B: これは月曜日と金曜日に出します。

A: 紙はいつですか。

B: 紙は水曜日です。朝に出してください。

A: 分かりました。ありがとうございます。

B: 分からないことがあったら、聞いてください。

空の事の話 (天気の話)

A: 今日は空がとてもきれいですね。

B: そうですね。太陽が出ていて、風も良いです。

A: でも後から雨が来ると聞きました。

B: 本当ですか。雨の物を持った方がいいですね。

A: 今日は何をしますか。

B: 雨の前に外を歩きたいです。

A: 良いですね。良い日にしましょう。

A: 今日は空がとてもきれいですね。

B: そうですね。太陽が出ていて、風も気持ちいいです。

A: でも後から雨が降ると聞きました。

B: 本当ですか。傘を持った方がいいですね。

- A: 今日は何をしますか。
 B: 雨の前に外を歩きたいです。
 A: いいですね。良い一日にしましょう。

考える話し (思索の対話)

生きるとは何か (生きるとは何か)

- A: 石は動かない。草は動く。何が生き物を生きている物にする？
 B: 動くだけじゃない。水も動く。火も動く。でもそれは生きていない。
 A: じゃあ何だ？生き物には何があって石にはない？
 B: 生きる風だ。全部を作った人が生き物に生きる風を与えた。
 A: 生きる風？私たちが飲む風と同じ？
 B: でも違う風だ。それがないと体は土と水だけだ。
 A: 全部の生き物に生きる風がある。でも人は他の生き物と違う？
 B: そう。全部を作った人は人をその人に近く作った。だから人は全部の生き物の中でもっとも大きい。

- A: 石は動かない。草は動く。何が生き物を生かしているんだろう？
 B: 動くだけではない。水も動く。火も動く。でもそれは生きていない。
 A: では何だろう？生き物には何があって石にはないのか？
 B: 命の息だ。すべてを造った方が生き物に命の息を与えた。
 A: 命の息？私たちが吸う空気と同じ？
 B: しかし特別な息だ。それがなければ体はただの土と水にすぎない。
 A: すべての生き物に命の息がある。しかし人間は他の生き物と違うのか？
 B: そう。すべてを造った方は人間を御自身に近く造った。だから人間はすべての生き物の中でもっとも尊い。

夜の光 (夜の光)

- A: 夜の空の光は何だと思う？

B: あの光は全部の始まりの時に空に与えられた。

A: 始まりの時に？人より前に？

B: そう。全部を作った人が空と土を作った後に空に光を与えた。

A: じゃああの光は光だけじゃない？

B: 見守る物だ。空に与えられた使いだ。上から私たちを見守っている。

A: 上からの使い？始まりの時からそこにいる？

B: そう。土と海が作られた時から変わっていない。

A: だから毎夜変わらない光がある。いつも上から見守っている。

A: 夜空の光は何だと思う？

B: あの光はすべての始まりの時に空に置かれたものだ。

A: 始まりの時に？人よりも前に？

B: そう。すべてを造った方が天と地を造った後に空に光を置いた。

A: ではあの光はただの光ではないのか？

B: 見守る者だ。天に遣わされた使いだ。上から私たちを見守っている。

A: 天からの使い？始まりの時からそこにいるのか？

B: そう。大地と海が造られた時から変わっていない。

A: だから毎晩変わらない光がある。いつも上から見守っている。

なぜ人は戦うの？ (なぜ人は戦うのか)

子供: 父さん、なぜ人は戦うの？戦うと悲しいことが起こるのに。

父: そうだね。人は怖い時に好きな物を守りたくなる。

子供: でも戦って守れるの？戦うともっと悲しいことが起こる。

父: 本当になら。全部の中で一つだけ強い守り方は好きでいることだ。私を好きなように他の人も好きでいること。

子供: でも悪い事をする人は？戦いに来る人は？

父: その人たちもだ。私に悪い事をする人も好きでいる。それが人にできる全部の中で一つだけ強い事だ。

子供: 私に悪い事をする人を好きでいるの？それはとてもできにくいと思う。

父: できにくい。でも全部を作った人がそう言った。私を好きなように他の人を好きでいなさい。悪い事をする人も。

子供: お父さん、なぜ人は戦うの？戦うと悲しいことが起こるのに。

父: そうだね。人は怖い時に大切なものを守りたくなる。

子供: でも戦って守れるの？戦うともっと悲しいことが起こる。

父: 本当にそうだ。最も強い守り方は愛することだ。自分を愛するように他の人も愛すること。

子供: でも悪いことをする人は？攻めてくる人は？

父: その人たちもだ。自分に敵対する人も愛する。それが人にできる最も強いことだ。

子供: 自分に敵対する人を愛するの？それはとても難しいと思う。

父: 難しい。でもすべてを造った方がそう言われた。自分を愛するように隣人を愛しなさい。敵をも。

ひとだけが持つ物 (人だけが持つもの)

A: 動物も食べて、飲んで、子供を守る。人と本当に違う？

B: 人は書く。会ったことのない人に言葉を与える。死んだ後も。

A: それは大きい。動物は今に生きる。人は前と後に生きる。

B: 人は動く物も作る。手でできないことを動く物でできるようにする。

A: でも石を使う動物もいる。人だけが物を使うのではない。

B: 物を使うことと、物について考えることは違う。人は見えない事を考える。

A: 見えない事？ どんな事？

B: 「なぜ生きるのか」。動物はこれを聞かない。人だけが聞く。それが良いことか悪いことかは、まだ知らない。

A: 動物も食べて、飲んで、子供を守る。人間と本当に違うのか？

B: 人は書く。会ったことのない人に言葉を届ける。死んだ後も。

A: それは大きな違いだ。動物は今を生きる。人は過去と未来を生きる。

B: 人は機械も作る。手ではできないことを機械で可能にする。

- A:** でも石を使う動物もいる。人だけが道具を使うわけではない。
- B:** 道具を使うことと、道具について考えることは違う。人は目に見えないことを考える。
- A:** 見えないこと？ どんなこと？
- B:** 「なぜ生きるのか」。動物はこの問いを持たない。人だけが問う。それが良いことか悪いことかは、まだ分からない。

とき 時について (時について)

- A:** この所^{ところ}に来て、多い年^きが終^おわった。あの木^おは前^きに小^{まえ}さか^{ちい}った。
- B:** 木^きは変^かわった。でも山^{やま}は変^かわって^いない。時^{とき}は物^{もの}によ^{ちが}って^違う。
- A:** 私^{わたし}たちも変^かわった。体^{からだ}が変^かわった。でも.....心^{こころ}の中^{なか}は^どうだ^らう。
- B:** 子^こ供^{ども}の時^{とき}に感^{かん}じた事^{こと}は、ま^まだ心^{こころ}の中^{なか}に^かあ^ある。変^かわ^わって^いない。
- A:** 時^{とき}は前^{まえ}に動^{うご}くだけ？ 前^{まえ}に行^いくこ^ことは^はで^でき^きない？
- B:** 体^{からだ}は前^{まえ}に行^いけ^いない。でも心^{こころ}は行^いける。本^{ほん}の中^{なか}で、目^めを閉^しめた中^{なか}で。
- A:** それなら時^{とき}は二^{ふた}つあ^ある。体^{からだ}の時^{とき}と、心^{こころ}の時^{とき}と。
- B:** そして私^{わたし}たちが死^しんだ後^{あと}も、あ^あなたと私^{わたし}が感^{かん}じた事^{こと}は他^{こと}の^{ほか}人^{ひと}の心^{こころ}の中^{なか}で^い生^いきるか^かも^もし^しれ^れない。

- A:** この場所^{ところ}に来てから、何^{なん}年^{ねん}も過^すぎた。あ^あの木^きは昔^{むかし}は小^こさか^かった。
- B:** 木^きは変^かわった。でも山^{やま}は変^かわって^いない。時^{とき}の流^{なが}れは^はものによ^よって^違う。
- A:** 私^{わたし}たちも変^かわった。体^{からだ}が変^かわった。でも.....心^{こころ}の中^{なか}は^どうだ^らう。
- B:** 子^こ供^{ども}の頃^{ころ}に感^{かん}じたこ^ことは、ま^まだ心^{こころ}の中^{なか}に^ある。変^かわ^わって^いない。
- A:** 時^{とき}間は前^{まえ}に進^{すす}むだけ？ 過^か去^そに^に戻^もるこ^ことは^はで^でき^きない？
- B:** 体^{からだ}は戻^もれ^れない。でも心^{こころ}は戻^もれる。本^{ほん}の中^{なか}で、目^めを閉^しじた時^{とき}に。
- A:** それなら時^{とき}間は二^{ふた}つあ^ある。体^{からだ}の時^{とき}間^{かん}と、心^{こころ}の時^{とき}間^{かん}と。
- B:** そして私^{わたし}たちが死^しんだ後^{あと}も、あ^あなたと私^{わたし}が感^{かん}じたこ^ことは他^{こと}の^{ほか}人^{ひと}の心^{こころ}の中^{なか}で^い生^いき続^つけるか^かも^もし^しれ^れない。

し 知ること (知ること)

- A:** 教^{おし}える人^{ひと}、本^{ほん}を^よん^んだ^らら、そ^その^こ事^{こと}を^し知^しっ^てい^いる^かと言^いえる^か。

B: 本の言葉は知ることができる。でも、本当に知ることが違う。

A: どう違うか。

B: 手で作ったり、体で感じたりしたとき、本当に知ることが始まる。

A: では、私はまだ知らないのか。

B: 知りたいと思っているなら、もう始まっている。それで良いと思う。

A: 知ることが終わるか。

B: 良い教える人も、まだ知らないことがとても多いと感じている。

A: 先生、本を読んだら、そのことを知っていると言えますか。

B: 本という言葉は知ることができます。でも、本当に知るということは違います。

A: どう違いますか。

B: 手で作ったり、体で感じたりした時、本当に知ることが始まります。

A: では、私はまだ知らないのですか。

B: 知りたいと思っているなら、もう始まっています。それで十分だと思いません。

A: 知ることが終わりはありますか。

B: 良い先生でも、まだ知らないことがとても多いと感じています。

うみ そと 海の外 (海の向こう)

A: この海はとても大きいね。外に何があるか。

B: 他の国がある。でも目では見えない。

A: その国の人たちも、この水を見ていると思うか。

B: はい、全部一つの水だ。海は一つだと思う。

A: 水の中に何がいるか。

B: 動物が多くいる。私たちが知らない動物も、まだいると思う。

A: 海は怖いか。

B: 怖い。でも海の音を聞くと、心が良くなる。

A: 私もそう感じる。大きい物の前に立つと、心が小さくなる。

A: この海はとても大きいですね。向こうに何がありますか。

B: 他の国があります。でも目では見えません。

- A:** その国の人たちも、この海を見ていると思いますか。
- B:** はい、すべて一つの海です。海はつながっていると思います。
- A:** 海の中に何がいますか。
- B:** たくさんの生き物がいます。私たちがまだ知らない生き物もいると思います。
- A:** 海は怖いですか。
- B:** 怖いです。でも波の音を聞くと、心が穏やかになります。
- A:** 私もそう感じます。大きなものの前に立つと、自分が小さく感じられます。

あたら ^{まえ}
新しいものと前のもの (新しいものと古いもの)

- A:** この国はとても変わったね。前は違った。
- B:** はい。新しい大きい家が多くなった。前からある家は少なくなつた。
- A:** 前からある道も変わった。前は木が多かった。
- B:** 新しいものは良いか、悪いか。
- A:** 新しい動く物で、人がする事が速くなった。でも前にしていた事を知っている人が少なくなっている。
- B:** 言葉も変わる。前の人たちの言葉は今もあるか。
- A:** 本の中にある。でも使う人は少しだけだ。
- B:** 変わらない事はあるか。
- A:** 山と海はまだ変わらない。太陽も毎日出る。

- A:** この国はとても変わりましたね。昔とは違います。
- B:** はい。新しい建物が増えました。昔からある家は少なくなりました。
- A:** 昔からある道も変わりました。以前は木が多かったです。
- B:** 新しいものは良いですか、悪いですか。
- A:** 新しい機械のおかげで、物事が速くなりました。でも昔のやり方を知っている人が少なくなっています。
- B:** 言葉も変わります。昔の人たちの言葉は今も残っていますか。
- A:** 本の中にあります。でも使う人はごくわずかです。
- B:** 変わらないものはありますか。
- A:** 山と海はまだ変わりません。太陽も毎日昇ります。

おと ころ 音と心 (音楽と心)

A: あの人^{ひと}が作った音^{つく}を聞くと、悲^{おと}しくなる。なぜか。

B: 私^{わたし}もそう感じる。その音^{かな}は何かを感じさせる。

A: 言葉^{ことば}は使^{つか}っていない。でも心^{こころ}に入る。

B: 言葉^{ことば}より前^{まえ}に、体^{からだ}が感じ^{かん}じると思う。雨^{あめ}の音^{おと}や風^{かぜ}の音^{おと}も、心^{こころ}を動か^{うご}かす。

A: では、人^{ひと}が作る音^{つく}と山^{やま}や海^{うみ}の音^{おと}は違^{ちが}うか。

B: 違^{ちが}うと思^{おも}う。人^{ひと}が作る音^{つく}の中^{なか}には、その人^{ひと}の心^{こころ}がある。

A: 悲^{かな}しい音^{おと}を聞^きいて、なぜ楽^{たの}しいと感^{かん}じるか。変^{へん}だね。

B: 悲^{かな}しさを感じ^{かん}じていい、と思^{おも}えるからかもしれない。一^{ひと}りじゃないと思^{かん}感^{かん}じる。

A: その音^{おと}を作^{つく}った人^{ひと}も、その悲^{かな}しさを知^しっていたのだね。

A: あの人^{ひと}が作った音楽^{おんがく}を聞くと、悲^{かな}しくなります。なぜでしょうか。

B: 私^{わたし}もそう感^{かん}じます。その音^{おと}は何かと呼^よび起^{おこ}こします。

A: 言葉^{ことば}は使^{つか}っていません。でも心^{こころ}に届^ときます。

B: 言葉^{ことば}より先^まに、体^{からだ}が感^{かん}じるのだと思^{おも}います。雨^{あめ}の音^{おと}や風^{かぜ}の音^{おと}も、心^{こころ}を動か^{うご}かします。

A: では、人^{ひと}が作る音^{おと}と自然^{しぜん}の音^{おと}は違^{ちが}いますか。

B: 違^{ちが}うと思^{おも}います。人^{ひと}が作る音^{おと}の中^{なか}には、その人^{ひと}の心^{こころ}が込^こめられています。

A: 悲^{かな}しい音楽^{おんがく}を聞^きいて、なぜ心^{こころ}地^ちよいと感^{かん}じるのでしょうか。不思議^{ふしぎ}ですね。

B: 悲^{かな}しさを感じ^{かん}じてもいいのだ、と思^{おも}えるからかもしれません。一^{ひと}人^{ひと}じゃないと思^{かん}感^{かん}じられるのです。

A: その音楽^{おんがく}を作^{つく}った人^{ひと}も、同^{おな}じ悲^{かな}しみを知^しっていたのですね。

なが はな 長^{なが}くない話^{はな}し (短編)

やま 山 (山)

私^{わたし}は一^{ひと}りで山^{やま}に行^いった。

みち なが いし おお
道は長くて、石が多かった。

あし おも と
足が重くなった。でも止めなかった。

うえ い かせ つよ
上に行くと、風が強くなった。

そら あか たいよう ひかり ぜんぶ もの はい
空はとても明るくて、太陽の光が全部の物に入っていた。

わたし すわ した うみ み
私は座って、下の海を見た。

いえ おも はは おも
家のことを思った。母のことを思った。

まえ とし わるい こと おお
前の年に悪いことが多くあった。

いま やま うえ こと ちい
でも今、山の上で、その事は小さくなった。

かせ き わたし からだ はい
風が来て、私の体に入った。

わたし め し
私は目を閉めた。

こころ なか なに か
心の中で、何かが変わった。

私は一人で山に行った。道は長く、石が多かった。足が重くなった。でも止まらなかった。上に行くと、風が強くなった。空はとても明るくて、太陽の光がすべてのものに降り注いでいた。私は座って、眼下の海を眺めた。家のことを思った。母のことを思った。去年は辛いことが多かった。でも今、山の上では、そのことが小さく感じられた。風が吹いて、私の体を通り抜けていった。私は目を閉じた。心の中で、何かが変わった。

ふた くに 二つの国(二つの国)

あるくに ひと うみ ちか
ある国の人は海の近くにいた。

もうひと くに ひと やま なか
もう一つの国の人は山の中にいた。

うみ くに ひと みず し やま くに ひと つち き し
海の国の人は水を知っていた。山の国の人は土と木を知っていた。

ある日、一りの 男が山から出て、海まで行った。

うみ おんな みず ちか すわ
海で女が水の近くに座っていた。

おとこ うみ み こわ
男は海を見た。怖かった。

おんな おとこ め み わら
女は男の目を見て、笑った。

こわ おんな はい
「怖くないよ」と女は言った。「入ってみて。」

おとこ すこ はい みず さむ
男は少し入った。水はとても寒かった。

ふた ことば ちが わら おな
二りの言葉は違った。でも笑いは同じだった。

よる ふた ひ ちか すわ た もの た
夜、二人は火の近くに座って、食べ物を食べた。

つき そら で ふた くに み ひと つき
月が空に出ていた。二つの国から見ても、一つの月だ。

ある国の人々は海の近くに暮らしていた。もう一つの国の人々は山の中に暮らしていた。海の国の人々は水をよく知っていた。山の国の人々は土と木をよく知っていた。ある日、一人の男が山を出て、海まで歩いていった。海辺では一人の女が水のそばに座っていた。男は海を見た。怖かった。女は男の目を見て、笑った。「怖くないですよ」と女は言った。「入ってみてください。」男は少し入った。水はとても冷たかった。二人の言葉は違っていた。でも笑いは同じだった。夜、二人は火のそばに座って、一緒に食事をした。月が空に出ていた。二つの国から見ても、月は一つだった。

おお き 大きい木 (大きな木)

やま なか ひと おお き
山の中に一つの大きい木があった。

その木はとても長い時を生きていた。

き おお あめ し おお かせ かん
木は多くの雨を知っていた。多くの風を感じていた。

こども き き うえ たの こども おお
子供たちが来て、木の上で楽しんだ。その子供たちは大きくなって、出て行った。

たたか ひと き ちが な
戦いがあった。人たちは木の近くで泣いた。

き うご た
木は動かなかった。立っているだけだった。

どうぶつ き なか はい ね
動物たちが木の中に入って、寝た。

くさ まいとし き ちが で お
草が毎年木の近くに出てきた。そして終わった。

でも木はまだある。

ある日の夜、一りの女が来た。

おんな き て も なに い
女は木に手を持って、何も言わなかった。

き なに い ふた こころ ひと
木も何も言わなかった。でも二つの心は一つになった。

山の中に一本の大きな木があった。その木はとても長い時を生きてきた。木は多くの雨を知っていた。多くの風を感じてきた。子供たちがやって来て、木の上で遊んだ。その子供たちは大きくなって、去っていった。戦いがあった。人々は木のそばで泣いた。木は動かなかった。ただ立っていた。動物たちが木の中に入って、眠った。花が毎年木のそばに咲いた。そして散った。でも木はまだここにある。ある夜、一人の女がやって来た。女は木に手を当てて、何も言わなかった。木も何も言わなかった。でも二つの心は一つになった。

こども 子供の「なぜ」(子供の「なぜ」)

こども き
子供はいつも「なぜ？」と聞いた。

そら あお ちち き
「なぜ空は青いの？」と父に聞いた。

ちち ひかり い
父は「光だよ」と言った。

ひかり あお こども い
「なぜ光は青くなるの？」と子供は言った。

ちち かんが そら い
父は考えた。「空だよ」と言った。

そら
「なぜ空はそこにあるの？」

ちち くち し
父は口を閉めた。

わたし い こども い
「なぜ私は生きているの？」と子供は言った。

ちち こども み
父は子供を見た。

よる ふた そと で
夜になって、二りは外に出た。

そら おお ひかり
空に多くの光があった。

こども い いま い
子供は「きれい」と言った。今は「なぜ」を言わなかった。

ちち こと かん わら
父はその事を感じて、笑った。

子供はいつも「なぜ？」と聞いた。「なぜ空は青いの？」と父に聞いた。父は「光だよ」と言った。「なぜ光は青くなるの？」と子供は言った。父は考えた。「空気だよ」と言った。「なぜ空はそこにあるの？」父は口を閉じた。「なぜ

私は生きているの？」と子供は言った。父は子供を見つめた。夜になって、二人は外に出た。空にたくさんの光があった。子供は「きれい」と言った。今度は「なぜ」とは言わなかった。父はそれを感じて、微笑んだ。

いぬ とり 犬と鳥 (犬と鳥)

わたし いぬ まいにちそと ある
私の犬は毎日外を歩く。

いまにち みち ある
今日も道を歩いていた。

そら しろ くも
空に白い雲があった。

くも した とり と
その雲の下で、鳥が飛んでいた。

いぬ うえ み うご
犬は上を見て、動かなくなった。

いぬ と おも あし つち うえ
犬は飛びたいと思った。でも足は土の上にある。

とき ちい とり いち き した き
その時、小さい鳥が一つ、木の下に来た。

ちい とり ある と
小さい鳥は歩いていた。飛ばなかった。

いぬ とり おな みち ある
犬と鳥は同じ道を歩いた。

いぬ わ そら と おな ところ い
犬は分かった。空を飛ばなくても、同じ所に行ける。

ふた どうぶつ おな かぜ かん
二つの動物は、同じ風を感じていた。

私の犬は毎日外を歩く。今日も道を歩いていた。空に白い雲があった。その雲の下で、鳥が飛んでいた。犬は上を見て、動かなくなった。犬は飛びたいと思った。でも足は地面の上にある。その時、小さい鳥が一羽、木の下に降りてきた。小さい鳥は歩いていた。飛ばなかった。犬と鳥は同じ道を歩いた。犬は分かった。空を飛ばなくても、同じ場所に行ける。二匹の動物は、同じ風を感じていた。

とお ところ さかな 遠い所の魚 (遠い所の魚)

わたし はら た もの
私は腹に食べ物がなかった。

そと で た もの か い
外に出て、食べ物を買に行った。

「すみません。さかなはありますか。」と聞いた。

男おとこの人は言った。「はい、あります。この魚さかなは遠い海とお うみから来きました。とても良い魚よ さかなです。」

「肉にくもありますか。」

「はい。肉にくと卵たまごもあります。」

私わたしは魚さかなと卵たまごを選えらんだ。

「全部ぜんぶでいくらですか。」

「三百さんびやくです。」

少しすこ高いと思おもった。でも遠い所とお ところの魚さかなだから。

お金かねを与あたえて、家いえに来きた。

魚さかなと卵たまごで食たべ物ものを作つくった。

腹はらに食たべ物ものが入はいって、体からだが温あたたかくななった。

たぶん後あとの日にちも、あさの魚さかなを買かいに行いく。

私はお腹に食べ物たべものがなかった。外そとに出でて、食たべ物ものを買かいに行いった。「すみません。魚さかなはありますか。」と聞きいた。男おとこの人は言った。「はい、あります。この魚さかなは遠い海とお うみから来きました。とても良い魚よ さかなです。」「肉にくもありますか。」「はい。肉にくと卵たまごもあります。」私わたしは魚さかなと卵たまごを選えらんだ。「全部ぜんぶでいくらですか。」「三百円さんびやくえんです。」少しすこ高いと思おもった。でも遠い所とお ところの魚さかなだから。お金かねを渡わたして、家いえに帰かえった。魚さかなと卵たまごで料理りょうりを作つくった。お腹はらに食たべ物ものが入はいって、体からだが温あたたかくななった。たぶん明日あしたも、あさの魚さかなを買かいに行いく。

髪かみを切きる人ひと (髪かみを切きる人ひと)

髪かみが長ながくななった。切きる時ときが来きた。

私わたしは歩あるいて、髪かみを切きる所ところに行いった。

中なかに入はいると、男おとこの人ひとが言いった。「どうしますか。」

「髪かみを切きってください。少すこしだけ。」

男おとこの人は私わたしの髪かみを手てで持もって、見みた。

「髪がとても強いですね。」と男の人は話した。

「本当ですか。」

「はい。たぶん骨も強いです。」

私は笑った。「分かりません。でも歯は強いです。」

男の人も笑った。

「頭の皮は良いですか。」

「いいえ、少し赤いです。太陽の光が強かったから。」

男の人はとても良く切った。

終わった後、私の髪は新しくなった。

髪を切る人と話すのは楽しかった。

髪が長くなった。切る時が来た。私は歩いて、髪を切る所に行った。中に入ると、男の人が言った。「どうですか。」「髪を切ってください。少しだけ。」男の人は私の髪を手で持って、見た。「髪がとても強いですね。」と男の人は話した。「本当ですか。」「はい。たぶん骨も強いでしょう。」私は笑った。「分かりません。でも歯は強いです。」男の人も笑った。「頭の肌は大丈夫ですか。」「いいえ、少し赤いです。日差しが強かったので。」男の人はとても上手に切った。終わった後、髪が新しくなった。髪を切る人と話すのは楽しかった。

少しの言葉 (俳句)

外の物 (自然)

やま うえ
山の上
かぜ き
風が来ている
そらあお
空青い

あめ おと
雨の音
そと き
外に聞こえる
よる みち
夜の道

うみ みず
海の水
おお うご
大きく動く
しろ いし
白い石

しろ つき
白い月
みず うえ で
水の上出る
よる うみ
夜の海

くも く
雲が来る
とり と
鳥が飛んでる
あめ まえ
雨の前

さかな い
魚行く
みず ひか
水で光って
うみ おと
海の音

みず の
水を飲む
たいよう で
太陽が出て
そと み
外を見る

た もの
食べ物を
こども た
子供と食べる
いえ なか
家の中

みち い
道を行く
おお き み
大きい木見る
かぜ おと
風の音

よる く
夜が来る
つき み
月を見ている
め し
目を閉める

いぬある
犬歩く
おな みち い
同じ道行く
かぜちが
風違う

はら い
腹が言う
さかな た
魚 食べたい
うみとお
海 遠い

こころ
心 (心)

ひと ま
人を待つ
こころ なか
心の中に
いつもいる

たの
楽しくて
こども わら
子供が笑う
おと き
音を聞く

な こども
泣く子供
はは て も
母が手を持つ
ひかり み
光 見る

ひと あ
人に会う
ことば すこ
言葉を少し
わら ひと
笑う人

わ
分わかりたい
こころ
心わで分かる
たぶんそう

はな
話はなしたい
ことば
言葉ときない時
め
目はなが話す

とき か 時の変わり (季節)

くさひら
草開く
やま
山かぜの風来くる
くさうご
草動く

そらあつ
空暑い
みず
水のを飲ひとむ人
にちお
日終わる

き
木かが変かわる
あか
赤やまくなる山
かぜさむ
風寒い

さむ よる
寒い夜
ひ ちか ひと
火に近い人
おと
音もない

ひと ひと 人と人 (人の間)

だれ く
誰か来る
し しまえ
知らない名前
わら ひと
笑う人

あ
また会おう
い あと
と言った後に
みちなが
道長い

ま
あなた待つ
こ し
来ないと知って
まだここに

て あた
手与える
ひと め
もらう人の目
ひかり み
光見た

いいえい言う
こころかな
心い悲しい
それでいい

生きるしと死ぬし (生と死)

はじ
始まりの
すこから少しだの体
な
泣いている

い
生きること
たうご食べて動いて
くにち来る日へ

ひとし
人は死ぬ
つちなか土の中い入る
くさい草生きる

およる
終わる夜
ひかりはじ光始まる
そら
空はある

しろ かみ
白い髪
ひやくねん い
百年生きて
ほねつよ
骨強い

ひかり ひかり
光と光がない(光と闇)

つき よる
月の夜
ひ ひと
火が一つある
だれ
誰かいる

ひかり く
光来る
こわ お
怖いの終わる
め ひら
目を開く

ひ と
火を止めて
ひかり
光なくなる
からだ
体だけ

よる そら
夜の空
つきしろ で
月白く出る
みちしろ
道白い

ことば
言葉 (言葉)

ことば
言葉ない
こころ うご
心が動く
ひと ひと
人と人

か ことば
書く言葉
だれ よ
誰も読まない
まだそこに

き ことば
聞く言葉
し ことば
知らない言葉
みちひら
道開く

い
言わないで
て も
手を持っている
それでいい



minihongo.com